

# 長崎の林業

小曾根星堂書



1

目 次

- 林政だより
- 特集記事
- 林業普及だより
- 地方だより・県北
- 地方だより・島原
- 林業団体情報
- センターだより
- イベント情報・県央
- 長崎の山と森

自然と友だちになろう！ - 緑の少年団って知ってる？ -	2~3
木と子どもと建築と	
株式会社 前田建築 代表 前田優作さん	4~5
☆令和7年度全国林業経営推奨行事で最高賞受賞☆	
☆令和7年度ながさき農林業大賞☆	6
産業エキスパートセミナーで高校生が林業機械操作に挑戦！	
木と人をつなぐ 佐世保林業研究会の活動	7
親子で栗ごはん炊飯と森林環境学習会	
千々石中学校 森林体験出前授業	8
長崎県森林ボランティア支援センターの取組	9
長崎のスギ・ヒノキ人工林は120年まで成長します！	10
森林のめぐみ展示会が開催されます！	11
多久頭魂神社のクスノキ ~太陽と山を仰ぐ信仰とともに~	12

「長崎の林業」は、  
ながさき森林環境  
税を活用して発行  
しています。



2026  
No.828

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林政だより

## 自然と友だちになろう! - 緑の少年団って知つとる? -

### 緑の少年団とはなんぞや?

緑の少年団は、次代を担う子ども達が、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育つことを目的とした団体です。

昭和35年国土緑化推進委員会が「グリーン・スカウト」の名称で緑化を実践する少年団の結成を呼びかけ誕生したのが始まりです。昭和50年代に「都道府県連盟」が組織化し、平成元年に「全国緑の少年団連盟」が設立されました。

令和7年1月1日現在、「全国緑の少年団連盟」には、全国2,994団312,373名が加入しています。

### 長崎県緑の少年団連盟の現在

長崎県の緑の少年団連盟は、昭和60年5月28日に設立され、令和7年1月1日現在19団体457名の団員が加入しています。

各地域の団数及び団員数は次のとおりです。

地域名	団数	団員数
県央	4	55
県北	2	72
島原	3	57
五島	5	64
壱岐	4	202
対馬	1	7
合計	19	457

R7.1.1現在 長崎県緑の少年団連盟加入数

### 年間活動をちょっと見てみよう

緑の少年団では、森林学習活動、奉仕活動、野外活動を行っています。令和6年度は、植樹活動、緑の募金活動、森林学習活動、花苗の植栽など、様々な体験活動に取り組んでいます。

また、地域の垣根を超えた「長崎県緑の少年団連盟 全県交流集会」も開催されており、活動内容の発表や、他団の団員と共に木工体験や森林学習を行う機会もあります。交流集会では、森林に親しみ、大切にする心を学ぶとともに、他の地域の団員との協調や集団の中での規律を学ぶことができます。さらには、活動発表において最優秀賞に選ばれた少年団は、翌年に開催予定（R8は和歌山県）の全国育樹祭に参加できます。



花苗植栽活動



花苗植栽活動



長崎県緑の少年団全県交流集会（R7. 12）

## 活動参加のメリットは？

子どもたちの心をはぐくむための貴重な「体験の場」となっている緑の少年団への参加は、様々なメリットがあります。1つ目は、自然への理解と愛着が深まり、将来への学びにつながることです。自然とふれあうことで、森林や環境への理解が深まり、進路にもつながる大切な一歩となります。2つ目は、新たなつながりが生まれることです。学校の統合で少年団の数は減りましたが、その分、新しい仲間と出会えるきっかけともなっています。少年団に入れば、地域の輪はさらに広がり、もっと多くの人と会えるチャンスがあります。3つ目は、自己成長、達成感が得られることです。仲間と力を合わせて活動することで、自然とコミュニケーション力や協調性が身につき、子どもたちの成長に結びつきます。



長崎県緑の少年団全県交流集会（R7. 12）

## よりよい活動のために！

本県では、森林環境教育の指導者を「長崎県フォレストマスター」と位置づけ、森林環境教育の活動を行う団体へ派遣する「フォレストマスター派遣制度」を設けています。この制度は令和2年度に制定し、令和5年度は22回、令和6年度は19回の派遣を行っています。緑の少年団の活動も派遣の対象となりますので、ぜひこの事業を活用して、より深く森林や環境に触れる機会を創出してみてはいかがでしょうか。

なお、長崎県森林ボランティア支援センターでは、さらに充実した活動にするため、活動場所や講師の手配などの支援を行っています。制度についてのお問い合わせは9ページ記載の窓口までお願いします。



図1 フォレストマスター派遣の流れ

## 終わりに

本県の緑の少年団活動をより活性化させるためには、関係する市町や地域で活動されている林業関係者、森林ボランティアの技術や人的支援が必要です。未来を担う緑の少年団の活動にご協力をお願いします。

(林政課 森林活用班)



今回ご紹介するのは「株式会社 前田建築」代表の前田優作さんです。

### 漁師町の少年が、大工の道へ

長崎県佐世保市小佐々の漁師町で生まれ育った前田優作さん。ご両親の影響で、幼い頃から“働く背中”を間近に見てきました。父は大工をしており、物心ついた頃から「大工さんになりたい」と思っていた前田さんは自然と大工の道を志すようになります。

高校は土木科に進学。その後、建築の専門学校に進み、卒業後は実家の「前田建築」で父と共に現場で腕を磨きます。修行は5年間にわたり、現場で働きながら夜間に資格学校へ通い、努力の末に2級建築士、宅地建物取引士、さらには、1級建築士も取得しました。

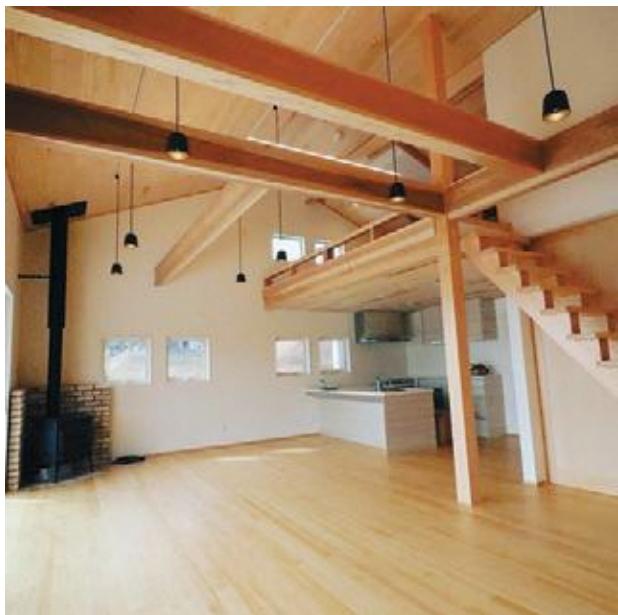
「もともとバリバリの大工です。本当は今でも現場に出たいんですけど、最近は図面ばかり描いています」と笑う前田さん。設計も現場もこなす建築士は今や少なく、特に“大工出身の一級建築士”は極めて稀な存在です。

### 親方のもとを離れ、独立へ

父とともに働いていた「前田建築」ですが、事業承継をめぐる話し合いの中で、自分のやりたい建築への思いが抑えきれなくなり、前田さんは「ゆう建築工房」を立ち上げ、独立しました。「ハウスメーカーが多い時代だけど、地元の工務店として良い建物を丁寧につくりたい」。そんな思いを胸に、設計から施工まで一貫して担うスタイルを貫いてきました。

その後2023年、あらためて「株式会社前田建築」を設立。父の代からの屋号を受け継ぎつつ、新たな法人として再出発しました。現在は、父と再び手を取り合いながら、世代を超えた家づくりに取り組んでいます。地域とのつながりや職人としての誇りも大切にしながら、より良い住まいをカタチにしています。

そして、前田さんのもう一つの顔が「くむんだーさせぼ」の代表活動です。これは、木組みの楽しさを子どもたちに伝えたいという前田さんの思いをカタチにした活動です。



前田建築 設計・施工の仕事の一例

## 「くむんだーさせぼ」誕生

「くむんだー」は、国産材と伝統的な貫工法を用いた移動式木育ジャングルジムのことです。子どもたちが協力して組み立て・解体する過程を楽しみながら、木の文化や建築の魅力に親しめる体験型の遊具です。

前田さんが「くむんだーさせぼ」をたちあげたきっかけは建築士会青年部での活動、九州ブロック協議会の会長を歴任する中で、あるイベントで出会った「くむんだー」に衝撃を受けたからです。

子どもたちが楽しそうに木を組んで遊ぶ姿を見て、前田さんはすぐに川村工務店(くむんだー発祥の工務店)の川村会長を訪ね、加盟を申し込みました。

手刻みができる大工や工務店のみが加盟できる、くむんだーの精神に感銘を受け、建築士会青年部メンバーを中心として、2023年に長崎県産材を使った団体である「くむんだーさせぼ」を始動しました。地元の小学校やさせぼシーサイドフェスティバル、今年度行われたふるさとの森フェスタでも出展し、大盛況となりました。「くむんだーはただの遊具じゃない。木の手触りや組み立てる達成感、建築の魅力を子どもたちが自然と感じてくれる。それが一番の価値です」

## 建築の未来へ、木でつなぐバトン

前田さんの夢は、もっと多くの人に“建築っておもしろい”と感じてもらうこと。「建築業界も大工も人手不足ですが、子どもたちが“将来建築士になりたい”“大工になりたい”と思ってくれたら、少し未来が変わるとと思うんです」

くむんだーでは、木を叩き続ける子、見て楽しむ子、完璧に組み上げる子——みんなが主役になります。その中から建築に興味を持つ子が出てくるかもしれない。そう考えると、イベントひとつひとつが未来への種まきです。今後は、アーケードや佐世保五番街など、もっと人の集まる場所でくむんだーを開拓したいという夢もあります。

「伝統工法が失われつつある今だからこそ、“木で建てる文化”的価値を次世代に伝えたい」

そんな前田優作さんの挑戦は、木と人、地域と建築をつなぎ続けています。



ふるさとの森フェスタ くむんだーの様子

### 長崎県内でのくむんだーの出展

地域、団体、学校、企業様からのご依頼お待ちしています。

お問い合わせは、

Instagramメッセージ または  
mk3builder.2002ch@gmail.com  
までよろしくお願ひします。



くむんだーさせぼ  
Instagram

林業普及だより

## ☆令和7年度全国林業経営推奨行事で最高賞受賞☆

### 「全国林業経営推奨行事」とは

公益社団法人大日本山林会主催の行事で、森林の有する多面的機能の発揮及び、林業の持続的かつ健全な発展に寄与している森林の管理経営体を表彰するものです。

### ☆農林水産大臣賞受賞☆

**株式会社 長崎林業 [諫早市]**  
(代表取締役 城臺 好之介)

株長崎林業は、県内の林業を経営する会社としては最も木材生産量が多く、高性能林業機械の保有台数や従業員数もトップクラスであり、生産性向上の取組等により、木材生産量を5年前に比べ1.5倍に増加させるなど、飛躍的に発展し、地域の森林整備の促進に尽力されています。

全国的にも先駆けて、木材搬出に必要不可欠な森林作業道の技術者育成に力を入れてい

### 令和7年度 全国林業経営推奨行事 賞状伝達贈呈式 記念祝賀パーティー

左から 山崎 武さん、城臺 猛さん、  
城臺 好之介さん、田中 正博さん



ます。さらには、県内で唯一の路網作設オペレーターの上級指導者が在籍し、県内外の森林作業道研修で技術者育成にも貢献されています。また、県が定める施策等の方向性の検討や取組推進のために設置された各種委員会等においても、林業推進活動に協力されており、魅力ある林業経営が他の模範となっている点などが高く評価されました。

## ☆令和7年度ながさき農林業大賞☆

### 「ながさき農林業大賞」とは

地域の特色を活かした先進的な活動を展開し、成果を上げている農林業者や組織を表彰するもので、今回で20回目の開催になります。

### ☆長崎県知事賞受賞☆

**林産部門（トップファーマー）**  
**原野 貢氏・たづる氏 [対馬市]**  
(原木しいたけ生産者)

原野氏は、平成20年に異業種から原木しいたけ栽培に参入されました。機械導入による作業効率の向上・低コスト化を図り、適期作業や温度・湿度管理の徹底により、現在は県内トップクラスの生産量となっています。

全農乾椎茸品評会において林野庁長官賞(令和5年度)、長崎県乾しいたけ品評会においては、農林水産大臣賞(3回)、林野庁長官賞(5回)、長崎県知事賞(11回)を受



賞するなど多数の上位入賞を果たされました。また、試験研究への協力や次世代への生産技術の継承など、地域産業の振興に貢献されていることも高く評価されました。

★受賞された皆さま、おめでとうございます。  
今後、益々のご活躍を祈念いたします。

(林政課 普及指導班)

地方だより

## 産業エキスパートセミナーで高校生が林業機械操作に挑戦!

鹿町工業高校 機械科2年生37名と北松農業高校 生物生産科1年生25名を対象に、林業の魅力を伝える「産業エキスパートセミナー」を開催しました。

当日は、株式会社 鶴田林業の作業員の方々を講師に迎え、チェンソーによる伐倒作業、高性能林業機械による造材・集材の現場見学を行い、その後生徒による高性能林業機械の操作体験を実施しました。

普段はなかなか見ることのできない林業の現場に触れた生徒たちは、その迫力に驚きながらも、意欲的に機械操作に挑戦する姿が印象的でした。

生徒たちからは「機械操作が楽しかった」「進路の選択肢が広がった」といった声も聞かれ、若い世代に林業の魅力を伝える貴重な機会となりました。

地域の林業を支える人材確保のため、今後もこうした取り組みを続けていきます。



(講師による現場作業を見学)



(高性能林業機械の操作体験)

## 木と人をつなぐ 佐世保林業研究会の活動

令和7年11月1日（土）、佐世保中央病院で開催された「地域感謝祭」では複数の体験ブースが設けられ、その一つとして木工教室が行われました。

この木工教室では、佐世保林業研究会の岡幸夫会長が講師を務め、子どもたちのイス作りをサポートしました。会場では、釘打ちややすりがけ作業に楽しそうに取り組んでいる子どもたちの姿が見られました。



(木工教室の様子)

毎年夏休みに佐世保市えぼしスポーツの里で開催される木工教室は、多くの子どもたちが参加する人気のイベントとなっています。

また、毎年長崎市浜町ベルナード観光通りで開催される「森林のめぐみ展示会」では、木工作品の展示や販売、活動紹介を行っています。

こうした活動は、地域の方々が楽しみながら木や森林の魅力を感じる、温かい交流の場にもなっています。

佐世保林業研究会では、木工教室や展示会を通じて、木に触れる楽しさや森林の大切さを地域に広めています。

県北地域で、木の魅力を伝える佐世保林業研究会の活動に興味のある方は、お気軽に県北振興局林業課までご連絡ください。

(県北振興局 林業課)

地方だより

## 親子で栗ごはん炊飯と森林環境学習会

### 栗拾い体験と森林学習会を開催

令和7年10月5日、南島原市南有馬町のイオンの里山で「秋の森林学習体験会」が開催されました。イオンの里山では、平成22年から24年にかけて約55,000本の広葉樹が植えられ、その中にはヤマグリが約500本含まれています。主催する南島原市みんなの森守協議会は、毎年ヤマグリの収穫期に合わせて体験会を実施し、子どもたちに山の恵みと自然の大切さを学ぶ機会を提供しています。

### 活動内容

今回の体験会では、現地での栗拾いや栗ごはん炊飯体験、島原振興局林務課による森林学習会を実施しました。

参加した子どもたちは思い思いに栗拾いを楽しみ、学習会では紅葉する理由や森林の役割について、クイズ形式で楽しく学ぶことができました。幅広い学年の小学生が参加し、自然への理解を深める充実した時間となりました。



(親子で栗拾い体験を行っている様子)

## 千々石中学校 森林体験出前授業

### 出前授業を実施！

令和7年10月9日、「地域学習」の一環で雲仙市立千々石中学校1年生11名を対象に島原振興局の林務課職員による出前授業を行いました。

授業内容として、座学と林業体験を行い、座学では林業の概要や森林の働き、林業が抱えている課題について授業を行いました。林業体験では傘を用いて間伐の前後を疑似的に体験したり、土壤模型を使用して森林が持つ浄化機能の実験、また現場で実際に使用しているドローンの操縦体験を行ったりしました。

### 学習発表会

令和7年10月24日、生徒たちは地域学習で学んだことや体験を通じて感じたことをパワーポイントにまとめ、発表しました。今回の取組みを通じて、将来の選択肢の一つとして考えるよいきっかけとなりました。



(出前授業の様子)



(学習発表会の様子)

(島原振興局 林務課)

## 林業団体情報

# 長崎県森林ボランティア支援センターの取組

長崎県森林ボランティア支援センターは、今年で開設17年目を迎えます。設立当初は18団体だった森林ボランティア団体は、現在では58団体にまで増え、県民の皆さんの森林への関心が年々高まっていることがうかがえます。それでは、センターの取組事例をご紹介します。

### 1. ながさき県民参加の森林づくり事業窓口

今年度の事業の一つに「のだけの森こうえん」さんによるナラ枯れ対策講習会がありました。この事業では、多くの参加者が集まり、ナラ枯れ対策について学びました。

### 2. 企業の森づくりコーディネート

今年3月トランス・コスモス株式会社が、長崎市「日吉自然の家」の森林整備を開始し、県内での企業の森づくり参加企業は計7社となりました。

### 3. 森林づくり相談

放置竹林に関する相談が多く寄せられています。また、整備後の竹の活用方法として、簡易に作れるポーラス竹炭への関心が高まっています。

### 4. 森林ボランティア活動の技術研修会

全国的に伐木中の事故が多いため、伐木の技術研修会を実施。また、長崎大学の学生を対象に、竹林の課題・整備・活用方法についての技術研修会も開催しました。

### 5. 貸出機材使用方法の説明や管理

森林ボランティア活動に使用する多様な機材の使用方法の説明も行っています。

### 6. 森林体験イベントの開催

長崎県民の森で「ふるさとの森フェスタ」を開催しています。今年度も500名以上の参加がありました。当イベントは、森林ボランティア団体や森林・林業関係者の協力で多くの人が賑わいます。



令和7年度「ふるさとの森フェスタ」の様子

### 7. 森林ボランティア活動のサポート

「これから始めてみたい。」という声に応じて、一人ひとりに合った活動内容を紹介・支援しています。

### 8. 小学校向けフィールド学習支援

小学校4・5年生を対象に、森林の大切さや楽しさを伝えるフィールド学習を実施。参加校も年々増えています。

### 9. フォレストマスター（森林の専門家）派遣

研修を受けて長崎県に登録された森林の専門家「フォレストマスター」を、自治会・団体・学校などに派遣しています。

### 10. 森林ボランティア活動の情報発信

HPやインスタグラム、広報誌にて森林ボランティア活動や森林づくりについて発信しています。

このような取組を通して、今後もボランティア支援センターでは、森林づくりの大切さを皆さんに伝える取組を、あらゆる角度から行っていきたいと思っています。

森林ボランティアや木育支援、企業の森づくりに関するお問い合わせは、下記までお気軽にお問い合わせください。

TEL095-895-8655

HP : <https://nagasaki-shinrin.com/>

（長崎県森林ボランティア支援センター）

センターだより

# 長崎のスギ・ヒノキ人工林は120年まで成長します!

## はじめに

近年、長崎県の人工林では、長伐期施業への移行傾向が強くなっています。長伐期施業とは標準伐期齢（スギ：35年、ヒノキ：40年）の概ね2倍以上の林齢で主伐することです。林分材積表は林齢と地位からその林分の材積を推定したものです。しかし、現在使用されているスギ・ヒノキの人工林林分材積表は昭和55年に整備されたもので、高齢林のデータが少なく、長伐期施業に十分対応できていません。そこで本研究では、近年増加している高齢林を含めた長崎県内のスギ・ヒノキ人工林を対象に、林齢と林分材積の関係を明らかにし、長伐期施業に対応した新たな林分材積表を推定することとしました。

## 成果

スギ人工林について、林齢と林分材積の関係から林分材積の推定が可能でした（図1）。またその林分材積は林齢に伴って増加し、120年生まで材積が増加する傾向が認められました（図2）。同様にヒノキ人工林についても、林齢と林分材積の関係から林分材積の推定が可能でした（図3）。その林分材積も120年生まで材積が増加する傾向が認められました（図4）。これらの結果から、スギ・ヒノキ人工林とともに120年生まで材積が増加し続けると推定され、長伐期施業が有効であることを示唆しています。

今後はこの推定式を使用して、長伐期施業に対応したスギ・ヒノキの人工林林分材積表を作成していく予定です。

（農林技術開発センター）

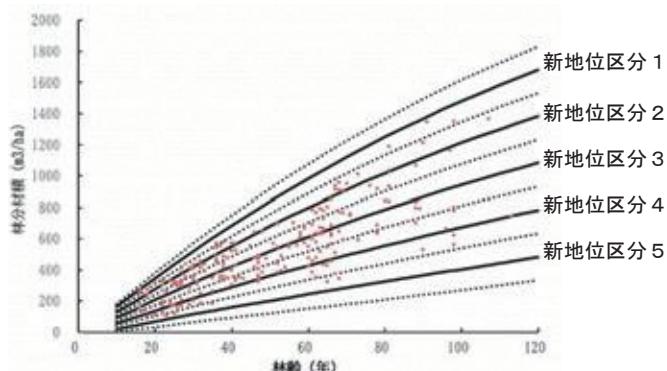


図1 長崎県スギ人工林における地位区別別の林齢とhaあたり林分材積

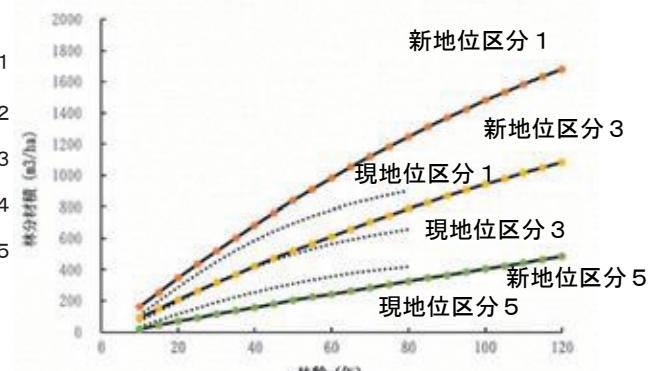


図2 長崎県スギ人工林の林齢とhaあたり林分材積の現行基準との比較

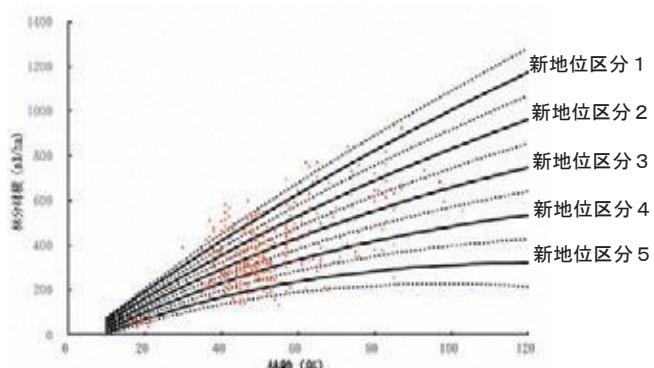


図3 長崎県ヒノキ人工林における地位区別別の林齢とhaあたり林分材積

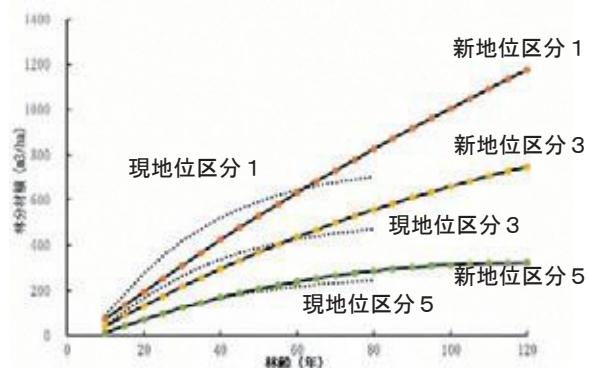


図4 長崎県ヒノキ人工林の林齢とhaあたり林分材積の現行基準との比較

## イベント情報

## 森林のめぐみ展示会が開催されます！



令和8年3月7日（土）に長崎市浜町ペルナード観光通りにおいて「森林のめぐみ展示会」の開催が予定されています。

「森林のめぐみ展示会」では椎茸やハランなど、森林から生産される特用林産物などの展示や販売を行います。展示会を通じて、地域外の団体や都市部の来場者との交流を促進するとともに、森林・林業活動の周知を図り、森林の役割や価値について広く一般に発信することを目的として開催しています。



特用林産物の展示

展示会には県内の林研グループをはじめ、諫早農業高等学校、長崎県緑化推進協会、ながさき県民の森が参加し、木工品や花、椎茸など、地域の豊かな自然から生まれた林産物が出展されます。昨年度の展示会では多くの来場者で賑わいました。

ぜひ会場に足を運んで、森林の恵みを楽しんでください！皆さまのご来場をお待ちしています。



木工品の展示

(県央振興局 林業課)



## 伊万里木材市況

## [ヒノキ]

令和7年12月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	21,000	普通	多い	多い
	16～18	小曲り	20,200	普通	多い	多い
	20～22	直	21,000	普通	多い	多い
	20～22	小曲り	20,200	普通	多い	多い
	24～28	直・小曲り	20,500 ～19,500	普通	多い	多い

## [スギ]

令和7年12月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	15,000	少ない	多い	多い
	16～22	小曲り	13,000	少ない	多い	多い
	24～28	直	15,000	少ない	多い	多い
	24～28	小曲り	13,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

長崎の山と森 対話で巡る長崎の巨樹巨木

## 多久頭魂神社のクスノキ ~太陽と山を仰ぐ信仰とともに~



写真 平原のカゴノキ

**【記者】**: 今回は、対馬市にある「多久頭魂（たくずだま）神社のクスノキ」について、樹木医の田嶋さんにお話を伺います。まずは神社の背景から教えてください。

**【田嶋さん】**: 多久頭魂神社は、対馬南端の豆駿（つつ）にあり、もとは社殿を持たず、龍良山をご神体とする山岳信仰の場でした。太陽や母子神への信仰が融合した、対馬独自の文化が今も残る神社です。

**【記者】**: 現在の拝殿は観音堂だったとか？

**【田嶋さん】**: はい。明治期の神仏分離の際、豆駿寺の観音堂を遙拝所とし、現在の拝殿となりました。かつては「タクズダマ＝天道法師」ともされ、自然信仰と仏教が重なっていた時代の名残です。

**【記者】**: その拝殿の裏に、今回のクスノキがあるんですね。

**【田嶋さん】**: ええ。幹にはしめ縄が巻かれていて、ご神木として大切にされてきたことが

分かります。地元では「観音堂のクスノキ」と呼ばれ親しまれています。

**【記者】**: この木の特徴を教えてください。

**【田嶋さん】**: 樹高 24m、幹周 7m、推定樹齢400年。大きく張った根が幹を支え、強風にも耐えてきた様子がうかがえます。幹にはいくつものコブがあり、過去の損傷を乗り越えた姿です。

**【記者】**: 途中で折れた枝から、新たに枝が伸びているのも印象的です。

**【田嶋さん】**: はい。台風などの影響を受けながらも再生を続ける姿に、生命力を感じます。

**【記者】**: 現在の状態はいかがですか？

**【田嶋さん】**: 地際や幹に空洞があり、腐朽が進行する恐れがあります。さらに他種の樹木が着生しているため、早めの除去など対策が求められます。

**【記者】**: 境内は特別な雰囲気がありますね。

**【田嶋さん】**: 長年の信仰が息づいていて、自然と文化が一体となった場所です。対馬の歴史を今に伝える、まさに象徴的な存在だと思います。

**【記者】**: 最後に、この木を訪れる人へひと言お願いします。

**【田嶋さん】**: 対馬の文化や信仰を体感できる、貴重な場です。この木が語りかけてくるものを、ぜひその場で感じ取っていただきたいですね。

所在地 / 対馬市厳原町豆駿

樹高 : 24m 幹周り : 7.0m

長崎の林業 1月号 第828号

編集・発行 長崎県林政課

住所 : 長崎県長崎市尾上町3番1号

電話 : 095-895-2988

ファクシミリ : 095-895-2596

メールアドレス :

s07090@pref.nagasaki.lg.jp